



# 日本女医会誌

復刊第 191 号  
2007 年 7 月 25 日発行  
題字 吉岡彌生

## 巻頭言

### 第 52 回総会を終えて

会長 小田泰子

神奈川県女医会の皆様のご協力を得まして、みなとみらい横浜のすばらしい会場と企画で第 52 回日本女医会総会を無事終えたことを感謝いたします。また、この総会に日本医師会会長・唐沢祥人先生にご出席頂き、女性医師支援に対する日本医師会の姿勢を直接お聞きすることができました。

いうまでもなく日本は縦の階層社会です。日本人は家の中でも外でも自分はどの階層のどこに属しているかを細かく測って自分の居場所を見つけて生きています。縦横に張り巡らされている階層の編み目の中で女性は男性を頂点とする社会階層に組み込まれ、…の母、…の妻、…の娘として社会的な居場所を得ます。これについては否定と肯定の両面がありますが、いずれにしても、女性は男性社会の地位、権力、人間関係の編み目に分断され細分化され、常に従的な位置に置かれます。医師社会におきましても医局、出身大学、友人関係などで階層化が加わります。一人の独

立した職業人として、そのような社会階層から自由でありたい女性医師もその仕組みから逃れることはできません。すなわち男性社会に生きることで女性は分断され第二の性に貶められます。卒業生が全員女性である東京女子医科大学でさえも女性教授は 23.4%に過ぎないという事実、各学会、各地医師会の役員を務める女性の少なさを認識するとき、男性社会における女性の地位の低さが端的に現れているのを感じます。

女性医師はこのような格差から自由でありたいし、あらねばなりません。社会に生きる手段として男性主体の組織や医師会活動に入り込み、そこで場所を得て活躍することは必要ですが、そこから生まれる分断された従関係に満足してはなりません。そこを拠点にして女性独自の尺度で生きる知恵と覚悟が必要です。ここに日本女医会の存在意義があると考えます。

医学部学生の 30% 以上を女性が占めるようになりました。時代が変わりつつあります。その風を敏感に

## 日本女医会誌 (第191号) もくじ

〈巻頭言〉第 52 回総会を終えて	小田泰子 (1)	〈委員会報告〉	
〈第 52 回 定時総会〉		子育て委員会	山崎康子 (14)
報告	山崎康子 (2)	長寿社会福祉委員会	角田由美子 (15)
会長挨拶	小田泰子 (2)	第 4 回「たんの吸引を安全に行うための講習会」報告	山本纈子 (15)
各賞と研究助成授与 各賞受賞者と受賞理由	(3)	国際女医会 ● MWIA NEWS RELEASE	内潟安子 (16)
吉岡弥生賞	湯澤美都子、石原幸子、加藤竺子 (4)	第 10 回ブロック別懇談会	古賀詔子 (16)
荻野吟子賞	稲生 襄 (5)	書評『人間関係うまくいく！自分を知る「6つのキャラ」』	対馬ルリ子 (17)
学術研究助成受賞	大屋敷純子、中神朋子、柳町 幸 (5)	各賞選考規定	(18)
監事に就任して	中井紀子 (8)	定時総会議事録	(18)
一致団結の心構えで	大竹輝子 (8)	定時評議員会議事録	(19)
経験を踏まえてより一層の努力を	小関温子 (8)	理事会議事録	(20)
第 52 回日本女医会総会準備日記	前田佳子 (9)	〈報告〉会員と支部長アンケートの報告	坂本雅子 (23)
横浜観光ツアー	吉田節子 (10)	Topics 澤口聡子会員：第 3 回『ヘルシーソサエティ賞』授与される	大坪公子 (24)
〈追悼〉佐藤千代子先生		会員動静	(24)
佐藤千代子先生を偲んで	橋川ふさ子、山崎倫子、橋本葉子 (11)	編集後記	大坪公子 (24)
〈支部だより〉活動の成果が少しずつ開花 小栗貴美子 (13)			

日本女医会のホームページが変わりました！ さらに充実して大変身 <http://www.jmwa.or.jp>

感知して、後に続く女性医師のために、しなやかに、たくましく活動を進めたいと希望しています。現在、女性医師支援として「子育て」に焦点が当てられていますが「子育て支援」は入り口に過ぎません。日本女医会は今年の主要な活動を「女性医師のキャリア

アップ支援」に焦点をおいて展開していく方針です。会員各自、各支部のアイディアと行動力を期待しています。

「私の前には道はない。私のうしろに道はできる」(高村光太郎) のです。

## 第52回日本女医会定時総会

2007年5月19日  
パシフィコ横浜会議センター (神奈川県・横浜市)

社団法人日本女医会総会に際し、会員数1743名、出席者数116名、記入委任者数552名、白紙委任者数224名、以上定款で定められた349名に達したので総会が成立する旨、渋谷理事より報告され、開会が宣言された。会長挨拶に続き、平成18年度物故者への黙祷が捧げられた。報告は会務および事務報告(山崎トヨ副会長)、平成18年度特別会計報告(森川理事)、ナショナルコーディネーター報告(内潟理事)、議事団・議事録署名人の選出に続き7つの議題が提出された。

- (1) 平成18年度一般会計収支計算案(高原理事)、
- (2) 余剰金処分案(高原理事)、(3) 平成19年度事業計画案(角田副会長)、(4) 平成19年度一般会計収支予算案(濱田理事)、(5) 各賞選考規定につ

いて(鹿田副会長)、(6) 次期および次次期開催地に関する報告(会長)、(7) その他(会長)

以上すべて承認された。

補欠選挙/新役員紹介に次ぐ表彰は会長より。吉岡弥生賞医学部門は湯沢美都子会員、社会部門は石原幸子・加藤竺子の二会員が受賞。研究助成は、大屋敷純子・中神明子・柳町幸の三氏が授与された。荻野吟子賞は稲生裏会員(神奈川支部)が受賞された。任期満了の川田監事の後任として、中井紀子氏が選出された。

22年ぶりの神奈川県での総会は14時37分に鹿田副会長による閉会の辞で終了した。

(広報部 山崎康子)

### 会長挨拶

小田泰子

皆さん、こんにちは。小田でございます。第52回日本女医会総会開催に当たりまして、ご多用にもかかわらずこのように多数の方にご出席をいただきまして、ありがとうございます。また、このように立派な会を準備して下さった大竹輝子先生が率いる神奈川県女医会の皆様にも感謝申し上げます。

横浜は、近代日本女性の最初の学校というか教育機関であるフェリス女学院が開かれたところ。そのフェリス女学院というのは、幕末に来日したヘボンが開いたヘボン塾、そこで実質的に教えたのはヘボン夫人ですが、そのヘボン塾を嚆矢とする学校です。その横浜の地で総会が開催されたことを、私はヘボンの研究者の一人として、二重にうれしく思っております。

昨年の総会で会長に選任されて以来この1年間、よく見えないところをたどるような感じで過ごしてまいりましたが、役員諸先生の温かい援助を得てラポール(筆者注:意思の疎通、共通認識の意)も生まれ、そしてつつがなくこの総会を迎え、午前中には評議員会

も無事終了できたことを本当に感謝しています。この総会では、昨年からの懸案でありました監事1名をお選びいただくこととなります。行政改革の一環として、公益法人の監事2名のうち1名は会員以外の者から選出するという規定によるもので、また、今後も定款の改正等、厚生労働省から言われておりますので、それを進めてまいらなくてはなりません。橋本葉子先生が至誠会の会長としてその方面のことに非常に詳しくいらっしゃると思いますので、橋本先生のご指導を仰ぎながら定款の改正を進めてまいりたいと考えております。

今年も各賞の選考がなされました。助成金、吉岡弥生賞、荻野吟子賞、それぞれ立派な方が受賞され、また推薦いただき感謝しております。このような活動をしていらっしゃる方はまだまだ、たくさんおいでになると思います。我々の知らない方も多いと思いますので、そのような方を発掘して、各支部からご推薦いただけたらと思います。

最近、医師不足を背景にして、女性医師の就労継続に熱い視線が集まっています。フランスの哲学者ボーヴォワールの書いた「第二の性」で、女は女として生まれるのではない、女は女としてつくられるのだ

と言いました。養育される過程で女の子にはピンクの服を着せ、女の子らしく振る舞うように教えられ、男の子は転んで痛くても泣いてはいけなくて教えられていくうちに、女は女として育てられていき、だんだん女になっていくのだと言いました。そういう男女の役割意識というか性別意識の刷り込みは非常に深く、我々もなかなか抜け出すことができません。

私たち女性医師は、小さいときから自分の人生を人任せにしないように一生懸命勉強して、学生時代には決して男子学生に負けない成績で卒業していますのに、いざ子育て、結婚となると、ついに女の役割に戻ってしまう。いろいろ生きにくいこと、やりにくいこともあります。ぜひそこをもうちょっと踏みとどまってほしいと思います。高等教育を受けた女性医師が家庭に引きこもってしまうことは、その人個人にとつての損失であるばかりでなく、社会にとつても大きな損失だと考えます。

このようなことを背景に、最近では女性を支援するい

ろいろな事業があります。日本医師会の女性医師バンク、東京女子医科大学の子育て支援、研究者支援、女性医師の再教育支援プログラムなどがあります。日本女医会も女性のキャリアアップを目指すための女性医師支援委員会を立ち上げて、皆さんたちの支援をしてまいりたいと思っています。

しかし、それぞれの女性医師の抱える問題は千差万別です。1つの手段で全員をカバーすることが難しいことはよくご理解いただけると思います。全員の難問をだれかに解決してもらうのは不可能です。自分に似合う穴は自分で掘らなくてははいけないと思います。人から借りた服は似合いません。自分をごまかさないので、これまでに流した汗と涙を無駄にしないように、訴えてまいりたいと思っています。

この日本女医会は、女性医師の総意を受けて、女性医師を支援する独自の団体としてこれからも活動してまいりたいと思います。ご支援をよろしくお願いいたします。

## 各賞と研究助成授与 ●各賞受賞者と受賞理由●

### ◆吉岡弥生賞◆

(医学に貢献した会員) 文京支部 湯澤美都子

日本大学医学部をご卒業、同大学の眼科学教室に入局し、同大学講師、助教授を経て、教授に就任。2000年には日本眼科学会学術集会に於いて、宿題報告の重責を果たし、2006年には同学会雑誌の最優秀論文賞も受賞した。現在も黄斑疾患の世界的権威者として、その業績は国際的にも高く評価されている。

(社会に貢献した会員) 練馬支部 石原幸子

東京女子医科大学を卒業後、同大学の小児科学教室に入局し、東京女子医科大学第二病院小児科開設時の功績により、同門会より奨励賞を受ける。

(社)日本女医会に於いては三十年間、日本女医会理事、同副会長として本会の発展に尽くし、1976年と2004年に東京で開催された国際女医会議に際しては、準備段階から積極的に多大な協力をした。現在も子育て支援委員会委員長として活躍している。

(社会に貢献した会員) 福岡支部 加藤竺子

帝国女子医専(現東邦大学医学部)を卒業、九州大学医学部第三内科に入局。その後行政に入り、福岡市保健所長、同衛生局長などの要職を歴任する。女性としては初めて、政令指定都市である福岡市助役に抜擢され、1期4年を務める。医師としての広い視野に立ち、衛生、民生、高齢者福祉などの分野で

功績を挙げ、その間(社)日本女医会副会長として多くの事業を企画実行、本会の活動に寄与した。

### ◆荻野吟子賞◆

神奈川支部 稲生 襄

昭和15年に東京女子医専(現東京女子医科大学)をご卒業、同大学の小児科医局に入局。以来今まで、小児科・内科医として診療に従事する傍ら、学校医・保育園園医などを勤められるなど、地域医療に貢献した。また、日本女医会神奈川支部長、日本女医会理事として後進の指導に当たった。

### ◆学術研究助成◆

大屋敷純子(東京医大)

造血器腫瘍におけるJAK2-V617F変異の分子病態解明と分子標的療法の開発

中神朋子(東女医大)

日本人非アルコール性脂肪肝の発症に及ぼす栄養素摂取量と身体活動に関する疫学的検討

柳町 幸(弘前大医)

非代償期慢性膵炎患者治療前後における安静時エネルギー代謝の変動



## 吉岡弥生賞を受賞して (医学に貢献)

文京支部 湯澤美都子



このたび、思いがけず吉岡弥生賞を受賞し、身に余る光栄と感激しています。吉岡先生を尊敬してやまない私にとりましては、30年の医師としての日々の中で、何よりも嬉しい出来事でした。

私は昭和50年に日本大学医学部を卒業し、眼科学教室に入局しました。眼科入局を決めたのは、当時の医局長から「眼科に入局しませんか。」と電話を頂いたためです。母は「どこからも勧誘がないじゃないの。眼科に行くしかないじゃない」と言い、私はションボリして入局手続きをしました。

入局後は黄斑疾患の勉強のためにオランダに留学していた1年と、切迫流産、切迫早産のために入院していた半年を除くと、駿河台日本大学病院を1カ月以上離れた事はありません。その結果、日本で有数の網膜硝子体疾患の臨床研究施設でよく言えば網膜疾患、特に黄斑疾患のスペシャリスト、悪く言えば片輪になり今日に至っています。

以前から医局をあげて網膜硝子体疾患と黄斑疾患の基礎的、臨床的研究が行われていますので、私も黄斑疾患をテーマに研究をしてきました。今回の受賞対象の1つになりました宿題報告は、駿河台日本大学病院の眼科の医師たちの研究成果に基づくものです。また日本眼科学会最優秀論文賞はポリープ状脈絡膜血管症の臨床研究を行ってきた種々の大学の10名の医師から成る研究会で作成した診断基準に対してであり、私が事務局になり論文をまとめさせていただいたものです。いずれも自分ひとりの力では到底成し得ることができなかったものです。

母校の眼科学教室に入局し、皆同じ方向性を持つ特化された日本有数の施設の中で先輩後輩に育てられ、臨床と研究を続け、日本中に多くの研究仲間を得て今日に至った私は大変恵まれていて幸せ者だと思います。

今後は今回の受賞に恥じないように黄斑疾患の臨床と研究を続けるとともに、後輩の育成や社会的活動にも貢献していきたいと考えています。

## 吉岡弥生賞を戴いて (社会に貢献)

練馬支部 石原幸子



この度思いがけず吉岡弥生賞を戴き、大変な名誉と、感激しております。

顧みますと、私が日本女医会と深く関りを持つようになりましたのは、昭和51年に東京で、第15回国際

女医会議を開催したときに、山崎倫子委員長からお声がかかったのがきっかけでした。

これ以来、30年にわたり4人の会長に師事できましたことは、私の生涯の誇りとする処です。

最初の三神美和先生は、沈着冷静で会員の意見に耳を傾け、最終的にはご自分の意思を通されました。

二番目の山崎倫子先生は、私の最も崇拝する先輩のお一人で、日本女医会を広く世間に認知させ、日本女医会を社団法人日本女医会に成長させ、社会的地位の向上と会の組織化に力を尽くされました。

三番目の佐藤千代子先生は、若々しく、明朗闊達、頭脳明晰、そして活気に溢れた方でしたが、病に倒れ、志なかばで引退されたのは誠に残念なことでした。

その先生の傍らには、橋川ふさ子先生がいつも付き添っておられたのが印象的でした。

最後にご一緒した橋本葉子先生は、温厚かつ理論派で、先進医療に対しても積極的な姿勢で、日本女医会を学術集団としてアピールされ地位向上に尽くされました。

こうして思い起こしますと、私も女医会の歴史の中で多くの経験、良い出会いに恵まれ、幸せだったと感じております。

今回私が戴いた吉岡弥生賞は、昭和44年に日本女医会の発展向上を願って、荒川あや先生が寄付されたものを基金として設立されました。たまたま私の同級生のお母様であったことも、感激一入であります。

これからは、吉岡弥生賞に恥じぬ人生を送らなければと思っております。

末筆ながら、今日まで私を支えてくださった全国の会員の先生方、推薦頂きました理事の先生方に、心より御礼申し上げます。



## 吉岡弥生賞を受賞して (社会に貢献)

福岡支部 加藤 竺子



去る5月19日、(社)日本女医会総会で吉岡弥生賞を戴き身に余る光栄と、感激いたしております。

例えば日本の女性医師の大先達として常に尊敬申し上げている吉岡弥生先生のお名前の賞を頂くということは私にとってこの上もない名誉でありご推薦頂きました皆様に心から感謝致します。

思い起こしますと、嬉しいことに私の祖父加藤千年長が、明治20年代に済生学舎で学びましたが、同時期に吉岡弥生先生も学んでおられたようで、故郷竹田市のお蔵の中で見つけた済生学舎時代の写真集に吉岡弥生先生と祖父加藤千年長の写真が写っており、ご縁の深さを感じます。きっと祖父があのお世で真っ白の長い髭を撫でながら孫の受賞を喜んでくれている事でしょう。私は3人兄妹の末っ子で、小ちゃい時から「大きくなったらお医者さんになるの」と、言っただけは祖父や父を喜ばせていたようです。

さて、日本女医会にどういっかけて入会したのか? 思い起こすと昭和25年頃だったと思います。インターンを順天堂病院で研修し第4回医師国家試験をうけたあと九州大学付属病院第三内科に入局、博士論文のための研究に挑戦していました。ある日思いがけなく吉岡弥生先生から直筆の分厚いお手紙が医局宛に届き日本女医会に入会するようにと、おすすめの内容でした。一面識もなくまた私は東京女子医専の卒業生でもないのに? と思ってびっくりしました。その後アメリカへ留学が決定した時にも再度お手紙を戴き恐縮しました。この2つのお手紙は大切にしまっていますが、思い残すのは、一度も吉岡弥生先生にお目にかかる機会がなかった事です。このたび吉岡弥生賞をいただき感激と感謝でいっぱいです。これからはこの賞の名に恥じないよう精進を重ねると共に余生を出来るだけ社会のために貢献するよう努力したいと思います。

## 荻野吟子賞を受賞して

神奈川支部 稲生 襄

第52回の日本女医会総会において思いもかけず、私如きが荻野吟子賞を受賞させていただき感謝申し上げます。ご推薦いただきました支部長の大竹輝子



先生、理事の山崎康子先生には心から御礼申し上げます。神奈川支部にとりましては全く22年ぶりの受賞でしたので、皆さん喜んでくださっていると思います。神奈川支部には会員も多いので皆さんそれぞれに活躍しておられます。これからは多くの受賞者を出してほしいと思います。

さて、私は昭和15年に東京女子医専(現東京女子医科大学)卒の88歳でございます。まだ現役にて午前中のみで診療を続け、川崎市立ごうじ保育園園医としても30年近く続け、毎月3、4回行っております。

ところで今回年齢も考えずに横浜での日本女医会総会を皆こなしした上に、新国立美術館へ行ったり、卒業校の千葉県立東金高校東京支部総会へ出席したりしておりましたら、突如として食欲不振となり、レモンティーとクッキーくらいしか摂れなくなり、あっという間に体重5キロ位減少をきたしまして驚いた次第。急遽東京女子医大の消化器病センターのお世話になることになりました。諸検査の上、内視鏡検査までやっていただきましたが、一週間後に「単なる胃炎です。腫瘍も何にもありません。」といわれ、ホッと一息。それから数日後には食欲も出、段々と元気になってまいり、6月24日(日)、新築成りし東京女子医大の千葉県八千代医療センターへ見学に行けるようになりましたので、どうぞご安心の程を!!!

随分皆様をお騒がせいたしました相すみませんでした。いい年をして“心因性胃炎”なんて、若い者に“今まで苦勞がなさ過ぎたからですよ”と笑われてしまいました。

これからも健康の許す限り小児科医としてお役に立ちたいと思っております。そして荻野吟子賞に恥じぬよう頑張りたいと念じております。

日本女医会のますますの発展と諸先生方のご健康を祈念申し上げます。

## 学術研究助成受賞に寄せて

東京医科大学 難治性免疫疾患研究センター  
新宿支部 大屋 敦純子



このたびは我々の研究課題「造血器腫瘍におけるJAK2-V617変異の分子病態解明と分子標的療法の開発」に対し学術研究助成を賜り、心より御礼申し上げます。

白血病やリンパ腫などの血液の

がんは人口10万人対10～20人とその発生頻度は他の部位のがんと比較して高くありませんが、働き盛りの人が罹患することも多く社会的インパクトの大きい疾患です。この分野では染色体異常とがん遺伝子変異の研究が他のがんに比べて進んでおり、私は造血器腫瘍における遺伝子診断の臨床応用について20年来研究を続けてまいりました。例えば、慢性骨髄性白血病ではフィラデルフィア転座にともなうABLチロシンキナーゼの活性化の発見から分子標的治療であるグリベックの開発へとつながり、グリベックは、画期的な治療法として今日臨床の現場で使われています。このような状況のなかで、2005年、真性多血症や本態性血小板血症といった慢性骨髄増殖症候群においても高頻度にJAK2-V617Fの変異が発見され、疾患特異的遺伝子変異としてにわかに注目を集め始めました(Ohyashiki et al. *Leukemia*. 2005, 19 (12): 2359)。本研究ではJAK2-617Fの変異の生物学的および臨床的意義を明らかにし、JAK2に対する分子標的法の確立することを目的としています。真性多血症、本態性血小板血症などの慢性骨髄増殖性疾患は健康診断などで発見される機会も多く、また時に血栓症を合併することより、血液内科以外でも遭遇する可能性の大きい疾患です。JAK2-V617F変異の診断系を確立し、From bench to bedsideへとつながるように研究を進展させていきたいと考えています。

私の20数年の研究生活は血液内科臨床医としても、医学研究者としても、順風満帆なものではなく、ことに老親の介護では子育て以上の試練に直面しました。しかしながら皆様のお力添えを得て、今日まで研究を続けて来られた事にただただ感謝の気持ちで一杯です。最後に、日本女医会会長の小田泰子先生をはじめ選考委員の先生方、東京医科大学・理事長、伊東洋先生をはじめ各先生方に深謝いたします。今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。

## 学術研究助成受賞に寄せて

東京女子医科大学・糖尿病センター  
東女医学内支部 中神朋子



このたびは、研究課題「日本人非アルコール性脂肪肝の発症に及ぼす栄養素摂取量と身体活動に関する疫学的検討」に対し学術研究助成を賜り、心より御礼申し上げます。

近年、糖尿病や心血管疾患の発生母地としてメタ

ボリックシンドロームの存在が注目されています。一方、非アルコール性脂肪肝 (NAFLD) は、飲酒と関係なく肝に脂肪沈着した病態から脂肪織炎をきたした Non-alcoholic steatohepatitis までを網羅した総称ですが、最近の成績から、NAFLD はメタボリックシンドロームの上流に位置しメタボリックシンドロームの肝における表現型ではないかと考えられるようになりました。我が国では、最近、NAFLD に関するエビデンスが集積しつつあり、我々の研究グループからは、日本人の健診受診者の約30%にNAFLDを認めること(論文発表済)、また、その頻度が肥満の程度と関係なくメタボリックシンドロームの構成因子となること、血糖、血圧、脂質値の悪化に伴い増加することを発表いたしました(投稿準備中)。そして、現在は、NAFLDの発症に関する生活習慣に関連した栄養摂取量や身体活動の特徴を明らかにすべく詳細な生活習慣のデータを解析中です。この点は世界的に見てもエビデンスが不足していること、また糖尿病を含めたメタボリックシンドロームの1次予防が急務であるにもかかわらず現存の疾病予防プロジェクトが明らか成果をあげていないこと等より、早急に研究を推し進めなければならない課題かと思われます。本研究は、現代日本人の生活習慣の変容を促進するために必要なエビデンスを提供することにより、メタボリックシンドロームの最終帰結である動脈硬化症の1次予防戦略の一助となると願っております。

本研究分野である疫学は、対象者を長期間観察するだけのマイナーな研究分野として長いこと捉えられていたよう思います。しかし、近年、本研究分野の広がりや目覚しく、特に、糖尿病やメタボリックシンドロームなど動脈硬化性疾患の予防や治療戦略、保健システムに対する施策の策定を行うため欠かすことのできない、極めて現実的かつ実践的な研究分野として注目されています。今回、医学部卒業後21年目、新たな10年のスタートに際し、医局の後輩(3人の女医)、実地医家の先生方、疫学専門家、栄養士、臨床検査技師さんなど多くの方々と二人三脚で遂行して来た共同研究に対して、学術研究助成を賜りましたことを大きな励みに、今後も精進してゆく所存です。

最後に、日本女医会会長の小田泰子先生をはじめ選考委員の先生方、共同研究者の佐々木敏先生(東京大学大学院医学系研究科・公共健康医学)をはじめ諸先生および関係各位に深謝申し上げますとともに、今後ともよろしくご指導、ご鞭撻の程お願い申し上げます。



## 学術研究助成によせて

弘前大学大学院医学研究科内分泌代謝内科  
青森支部 柳町 幸



このたびは我々の研究課題「非代償期慢性膵炎患者治療前後における安静時エネルギー代謝の変動」に対し学術研究助成を賜り、心より御礼申し上げます。研究内容につきまして概要について述べさせていただきます。

したいと思います。

健常人では実測の安静時エネルギー消費量は身長、体重、年齢、性別などを考慮して算出される基礎エネルギー消費量の予測値とほぼ一致するため、安静時エネルギー消費量に関してはほとんど実測されることなく予測値で代用されています。しかし、疾患罹患時にはエネルギー代謝は変動し、予測エネルギー消費量と実測の安静時エネルギー消費量とは一致しない場合があります。今回、研究対象として選択しました慢性膵炎は、病期によって異なる病態を呈する疾患です。慢性膵炎は膵内外分泌機能が徐々に荒

廃し、代償期にはほぼ正常であった膵内外分泌機能が非代償期には荒廃します。その結果、膵内外分泌機能不全が生じ摂取した脂肪、糖質の利用が障害され、蛋白・エネルギー栄養不良 (PEM) を呈する傾向にあります。したがって、非代償期慢性膵炎の栄養治療として消化酵素補充とインスリン投与を行い、必要十分量のエネルギーを投与しなければなりません。治療後、摂取した栄養素の利用障害が改善されるため患者の代謝状態は大きく変動すると予想されます。治療中の栄養評価に際しエネルギー消費量を実測することで、非代償期慢性膵炎患者に対し必要十分量のエネルギーを投与することが可能となり、PEMに対する治療上有用な検査であると考えられます。Hebuterneらは低体重の慢性膵炎患者ではエネルギー代謝が健常者と比較して亢進すると報告していますが、病期別の報告はありません。学術研究助成を活用させていただきまして、栄養療法が必要となる非代償期慢性膵炎患者の治療前後での安静時エネルギー代謝の変動を検討したいと考えております。

最後に、日本女医会会長の小田泰子先生をはじめ選考委員の先生方、ご推薦頂きました白鳥敬子教授 (女子医科大学)、本研究の共同研究者であります中

高親和性AT<sub>1</sub>レセプターブロッカー

# オルメテック<sup>®</sup>錠

5mg  
10mg  
20mg

指定医薬品 処方せん医薬品・注意—医師等の処方せんにより使用すること  
一般名/オルメサルタン メドキシミル

薬価基準収載

製造販売元 (資料請求先)

**第一三共株式会社**

東京都中央区日本橋本町3-5-1

プロモーション提携

**株式会社 三和化学研究所**

SKK 〒461-8631 名古屋市長区東外堀町35番地

※効能・効果、用法・用量および禁忌を含む使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。

三共株式会社と第一製薬株式会社は2007年4月1日より第一三共株式会社として新たにスタートしました。



村光男教授（弘前大学医学部保健学科）、丹藤雄介先生（弘前大学医学部第三内科）、および関係各位に感

謝申し上げますとともに、今後ともご指導、ご鞭撻の程お願い申し上げます。

## 監事に就任して

監事 中井紀子



この度、歴史ある社団法人日本女医会監事に任命していただき、身の引き締まる思いです。日本女医会発展のため尽力を注いで参る所存でございますので、何とぞ宜しくお願い申し上げます。

## 第52回 定時総会

### 一致団結の心構えで

神奈川支部 大竹輝子

2年前に橋本先生から、「今度は神奈川県にお願いします」と告げられた時、「ああやっぱり神奈川は22年前にお受けしたきりだし、会員数も一応は多い事だし、お引受けしないわけにはゆかないのだ」と思いました。

さて何から手をつけてよいかわからず、前年度なされた県の支部長さんに伺ったり本部の方に問い合わせたりしました。役員会でお話したところ、「お手伝いしますから」という若手の方々が、私も、私もと出て来て下さったので助かりました。そこで、誰が何をやるかの割振りを考えましたが、まず一番は資金を集める事でした。最近ではそう簡単にメーカーさんも広告料などお出しにならない様ですが、その筋に詳しい会員の努力で相当数協力していただきました。更に不足分を一般会員にも呼びかけたところ気持ちよく御寄付を頂き、気を揉みながらも一つ一つクリアして行く事が出来ました。

内容も充実させなければならぬと、毎日せわしい仕事の合間に都合をつけて集まり、知恵を出し合って講演の事、アトラクション、懇親会の事など、次々と煮詰めて行き、2年の歳月もあっという間に過ぎて当日が来ました。

果たして講演会に大勢の方々が見えるのだろうか、その場に来るまで心配でした。

前夜祭から始まり当日も好天に恵まれ、大変幸運でした。講演会場と懇親会場と少し離れた場所をしつらえたので雨でも降ったらどうしようと案じていましたが、その心配もなく、かえって「みなとみらい横浜」の近代的な風景を眺めて戴く事が出来たと思えました。

先日来、全国にお帰りになった方々から、何通ものお礼状を頂きました。「とても楽しかった」、「華やか

で盛沢山で、神奈川の会員のあたたかさが心にしみた」等、それは嬉しい言葉の数々を載いて心身共に疲れ切った老体もいっぺんに回復しました。お手伝い下さった会員諸姉の方々にこのことをお伝えし、紙上を借りて厚く御礼申し上げます。そして同時に総会開催に当たって御助力下さった医療関係の皆様にも心より感謝いたします。今回、準備委員会を結成いたしましたから、今までお顔と名前が一致しなかった若手会員の方々とも、本当に懇親の意味合いと同時にお近づきになれた事は貴重なる成果であると嬉しく思っております。

更にこれを機に21世紀にはばたける女性医師として一致団結の心構えがあればこれから何をするにも良い成果があがる事間違いなしと自負してやみません。



### 経験を踏まえてより一層の努力を

神奈川支部 小関温子

日本女医会第52回定時総会が平成19年5月19日（土）、パシフィコ横浜会議センターで開催されました。日本女医会の総会が神奈川県で開催されたのは22年振りのことです。

現在、女性医師の数は増えつつありますが、女性医師を受け入れる医療環境が整備されていない、また女性医師自身にも意識の不足など改善すべき問題が少なくありません。そこで神奈川県支部では今回の総会のテーマを「21世紀に羽ばたく女性医師をめざして」とし、若手の支部会員も協力して総会の準備を進めました。



総会の議事終了後、午後3時20分より、東京女子医科大学名誉教授、大森安恵先生を座長として、3題の講演が行われました。

まず、前会長橋本葉子先生が「女性医師の働く環境整備」について講演されました。日本女医会が行った「卒業11～15年目医師の実働実態に関する調査」によると「女性医師のキャリア形成障害因子」は「育児関連」である事が明らかになりました。そこで東京女子医科大学（病院）では育児環境整備支援として、「保育とワークシェアによる女性医学者研究支援」と「女性医師再研修センター」の2つの事業を開始したとお話をされました。

ついで、東京女子医科大学教授（遺伝子センター所長）で女性医学支援室副室長斎藤加代子先生が東京女子医科大学（病院）では保育支援については、院内保育を充実し、病児保育も可能とした事、また女性医学研究者の育成をめざしてワークシェアやフレックス制などを導入し、女性医師への経済支援や研究費補助などによる事業を始めている事などを話されました。さらに、医療においてもより国際化の進む時代を迎えています、埼玉医科大学名誉教授、次期国際女医会会長の平敷淳子先生に「国際女医会の活動について」と題してお話していただきました。

三講演に続いて、作家、前長野県知事、新党日本代表の田中康夫氏に「優しさ 確かさ 美しさ 総合愛情産業としての医療をめざして」と題する特別講演をしていただきました。田中氏は県知事としての立場から地方の医療行政を直接手がけられた経験をお持ちで、医療の未来、女性医師の関わり等について示唆に富むお話をしていただきました。

講演後、前会長橋本葉子先生から「近来にない実のある総会だったと思います。田中先生の講演はユニークで文筆家的、政治家的には相当進歩的な物の考え方をなさっているように思いました。21世紀の日本女医会は吉岡弥生先生の深い思いを忘れず、卒業大学とかある意味での派閥などにこだわらず、男女共同参画社会を目指して、特に医療面で頑張ってくださいと願っております。これからは、各支部の社会活動が日本女医会の評価の1つになると思います」との素晴らしいメッセージをいただきました。今回の経験を踏まえて、より一層の努力をしなければならない事を痛感しました。

## 第52回 日本女医会総会準備日記

神奈川支部 前田佳子

平成19年5月19日 晴れ

前日の前夜祭の興奮も冷めやらぬまま、週末で人のまばらな電車に乗り込みました。いよいよ昨年からの準備を進めてきた集大成の日です。あれもこれもやり残したようで、不安と疲れが肩にのしかかっている気分で、試験会場に向かう学生のような感じ。そうは言っても3時間後には評議員会が始まってしまいますし、半日後には懇親会の真っ只中です。「始まってしまえばどうにかりますよ」と、本部の霜田さんの優しい励ましが頭をよぎります。本当にそうであって欲しいものだが、と心の中で呟きながらみなどみらいの改札を通り抜けました。「おはようございます！」と爽やかな声が背後から聞こえ、一緒に会計を担当している池田先生がクールな笑顔で近づいてきました。彼女は今回の準備委員の中で最年少で、美人で、元気です。二人はパシフィコの会場へと向かいました……。

平成18年10月7日 晴れ

稲生先生のお計らいで、武蔵小杉のコミュニティークラブで総会準備委員会が開催された。大阪の学会から直行した私は少し遅れて到着。遅ればせながら前年度に女医会に入会したばかりの私が声を掛けていただいたのは、神奈川県支部総会に出席したのがきっかけだった。今までにも医局で学会を開催した時に準備には携わってきたので、少しは役に立てるだろうと引き受けさせていただいた。この時点で決まっていたのは総会の日程と会場だけ。22年前に総会を担当したとはいえ、ちょっとスピードアップしないと間に合わない？！

平成18年12月9日 雨

年内最後の打ち合わせ。やっと各役職担当者が決まったという状況で、残り5カ月で準備が出来るのかかなり不安な状況。総会のメインテーマを次回までの宿題で決める事になった。前夜祭と懇親会の会場はパンパシフィックホテル、宣伝用のポスターを作製が決定。広告掲載を製薬会社にお問い合わせするにあたり、各人に担当の会社が割り振られ、趣意書は年内に配布出来るよう準備を進めることに。趣意書とポスターは私のお仕事に。

平成19年1月21日 曇り

パシフィコ横浜とパンパシフィックの会場の下見を兼ねての準備委員会。会議センターとホテルは隣同士と言っても橋を渡るので結構距離があり、不便で

わかりにくい。両方ともホテルの方が良かったのではとの意見もあったが、今からの変更は時間的に無理なのでこのまま強行。メインテーマは「21世紀に輝く女性医師をめざして」に決まり、これに合わせて前女医会会長の橋本葉子先生、女子医大で女性医学研究者支援プロジェクトを行っている斎藤加代子先生、国際女医会次期会長の平敷淳子先生に講演していただくことが決まった。以前からお願いしてあった前長野県知事の田中康夫氏からも特別講演を引き受ける旨の返事があり。内容が充実してきて、良い会になりそう。経済的に苦しいため、神奈川県支部の会員の先生方には寄付のお願いを。

#### 平成19年3月3日 晴れ

前夜祭は吉川久子さんのフルート演奏、懇親会ではブルーノ・ディミノ氏のシャンソンの演奏が決定。ポスターも今月中には完成、発送となる予定。総会まで2カ月半しかないのに、プログラムの作製は原稿もまだ集まっておらず、本腰を入れて取り掛からなければ。総会翌日のオプションツアーはクルーズと鎌倉観光の2種類を用意していたが、参加希望者が極端に少なく開催が危ぶまれる状況。最終的にはクルーズのみに絞ることに。

#### 平成19年4月21日 晴れ

プログラムは中島先生と早乙女先生のご努力で何とかゲラ刷りまで進み、お忙しい中本当にご苦勞様！まだ修正は必要だが、これならぎりぎり間に合いそう。講演は演者4人で内容が多すぎ、評議員会と総会の時間が足りなくなると本部で問題になり、あとわずかの準備期間なのに大ピンチ。鹿田副会長が準備委員会に出席され、時間調整の打ち合わせとなった。本部側もなるべく進行を速やかにして、協力していただけることとなりホッと。

#### 平成19年5月12日 雨

総会を1週間後に控えて最後の打ち合わせ。私自身はひどい風邪をひき、咳が止まらないまま打ち合わせ会場へ。1週間で体調を整えなければ！と心に誓う。色々と物議をかもした講演も時間調整がつき、プログラムの印刷もぎりぎり間に合い、あとは役員のタイムスケジュール調整のみとなった。土曜日はお仕事の先生方も多く、午後からでないと参加できないなどの事情を考慮して、受付、会場係、本部の待機などの担当を決めた。

私はと言えば、最後の最後までパシフィコ、お弁当のインターコンチ、パンパシフィックの担当者との打ち合わせが続いた。決まっては変更の繰り返いで、終わりがないように思えた。それに、いったいいくらか

かるのか不安……。

#### 平成19年6月23日 曇り

準備委員の慰労会が横浜で行われた。これをもって委員会は解散。大変だった分、少し寂しい。

終わってしまえばあつという間でしたが、長くて短い準備期間でした。そしていい経験をさせていただきました。反省すべき点は沢山ありますが、それらは再来年の担当の方々に申し送らせていただくことにいたします。大竹先生をはじめ、みなさま本当にご苦勞様でした。

## 横浜観光ツアー

練馬支部 吉田節子

横浜は娘夫婦が住んでいますので、孫に会うのをたのしみに時折出かけていました。でも今回の女医会ツアーはまだ行っていない所ばかり。同業で親しい平山先生と誘い合って参加する事にしました。

ツアーというとバスにゆられてという思い出が多いのですが、今回は観光地が凝縮されていて私たちの年齢にはピッタリのツアーでした。

いまや若者のスポットになった赤レンガ倉庫、イメージを一新した中華街、山下公園は歩いてみてもすぐ、少しはずれた三溪園でも4キロ位の近さです。まぶしいような晴天の朝、大竹支部長の先導で全国からの会員20名近く、まず三溪園を目指し、バスガイドさんの説明を聞く間もなくあつという間につきました。ここは生糸貿易で財をなした実業家「原三溪」の邸宅跡とのことです。緑につつまれた20万m<sup>2</sup>という名園には京都鎌倉などから移されたという由緒ある家屋が散在、池に映える景観はすばらしく、白く咲き誇った睡蓮の花は心を和ませてくれました。

バスは港にもどり赤レンガ倉庫へ、ここは明治時代の面影を残して港に立ち並ぶ倉庫群が、5年位前にイメージをかえレトロな雰囲気をかもし出す人気ショップ街になっていました。その左手に海上保安資料館がありました。



ここには5年くらい前九州南西の海で銃撃戦があり沈没した北朝鮮工作船が展示されていました。その生々



しい実態を目にし、平和なうちにもこんなことがあるのだと国際情勢の複雑さを思い知らされました。

日曜日の山下公園は異国情緒さながら、スポーツする人、ランチする人、家族連れなどでにぎわっていました。いよいよツアーのハイライト横浜湾クルーズです。

陸ですとそのスポットだけの限定されたものですがクルーズで海から見る横浜の全景は壮観、まさにパノラマです。大竹支部長とご一緒のテーブル、食事もそこそこにお話はずみです。あちこちのテーブルでもおしゃべりの花が咲き談笑のうず。前の日の会とは異なり前から友達だったような打ちとけた雰囲気です。同じ仕事でも女性達だけというツアーの醍醐味です。

1時間半のクルーズの後、中華街で店をのぞいたり、お土産を買ったり、気ままなひとときの散策を楽しみました。

これから毎年開かれる日本女医会、気力体力の許す限り出席している  
 いる勉強しそして  
 各地のツアーで名  
 所をめぐり、参加  
 した先生方と心を通じ合いたい。そんな思いです。



追悼  
佐藤千代子先生

偉大な先輩を失った悲しみ

愛知支部 橋川ふさ子

平成19年3月30日に佐藤千代子先生が逝去されたとの訃報を聞き、遂に来るべき時が来てしまったと思うと同時に長年の闘病生活がどれ程にお辛かったかと思ひ涙が止まりませんでした。

先生は日本女医会を心から愛し、より良い女医会にしたいとの激しい情熱で、全力投球され休む暇もなく大活躍されていました。

元々あまりお丈夫でないお体にご無理が重なり、変調が現れ平成9年9月30日の午後から左に麻痺らしい兆候と構語障害も少し出て来ました。翌10月1日早朝か



NOVARTIS

THE ARB  
DIOVAN

選択的AT<sub>1</sub>受容体ブロッカー 薬価標準収載

**ディオバン錠** 160mg 80mg 40mg

指定医薬品 処方せん医薬品 注意—医師等の処方せんにより使用すること

**DIOVAN** バロサルタン錠

●禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意については、製品添付文書をご覧ください。

製造販売 (資料請求先)  
**ノバルティス ファーマ 株式会社**  
 東京都港区西麻布4-17-30 〒106-8618

**NOVARTIS DIRECT**  
 ☎0120-003-293  
 受付時間: 月~金 9:00~18:00  
[www.diovan.jp](http://www.diovan.jp)

ら急変し、早速に保健衛生大学附属病院へ脳梗塞で入院されました。当日私が駆けつけました時には意識も無い程のきびしい状態でした。間もなく意識がもどりましたが、左半身麻痺が残りました。4ヶ月程ご入院され翌年1月に退院されてから、ご自宅近くの病院へリハビリに通われました。懸命のリハビリにも一向に麻痺が改善されず、私共も心を痛めておりました。その後自宅療養も十年近くになり、ご家族のご苦労は言うに及ばず、先生ご自身も悲しくいらだっておられましてお気の毒でございました。

お見舞いにまいりましても長居をしますと、後でお疲れがはげしいので私は約10分位と決めて帰りました。

お会いすると女医会の先生方のご様子を熱心にお聞きになってご満足そうでした。

顧りみますと、先生は昭和45年から日本女医会理事となられ、引き続き常任理事として手腕を発揮されました。その頃私も理事になり毎月東京へ先生とご一緒に往復しました。以後20年余り先生のお供をして全国いたるところ、また外国にも付いて行くことになりました。先生は知名度が高く、行く先々で友人知人が多く驚きました。

ご一緒する乗物の中でも先生のお話が楽しく冗談の連発でした。先生は体は小柄ですが包容力は大きく、持ち前の巧みな話術で私は魅了され感心し尊敬しておりました。

昭和60年に山崎倫子先生が日本女医会会長に就任され、同時に佐藤千代子先生が副会長になりました。お二人は、とても息の合った名コンビで精力的に女医会の強化と運営に努力されて女医会が円満に充実した時期でした。平成6年に山崎会長が勇退され、佐藤会長が誕生しました。会長になられてからは益々忙しくなりました。以前から心臓疾患がおありになるので心配していましたが、東奔西走の連続でエネルギー豊富な行動にお供の私が悲鳴をあげる程でした。

平成7年のあの阪神淡路大震災の時には、会長の英断でいち早く救護班を編成し、2回にわたって神戸の避難所を廻り被害者からたいそう感謝されました。

先生は積極的な性格で内外を問わずお出掛けになり、国際女医会議や西太平洋地域会議にも殆ど出席されました。平成5年、京都で開催しました国際女医会西太平洋地域会議では組織委員長として活躍されました。日本的な内容が大うけした、素晴らしい立派な会でした。先生の面目躍如の大成功でございました。

ニトロを持ち歩きながらの行動力は忠告も何のその、ブレーキがかけられず発作がおきないかと私は絶えずハラハラしておりました。

会長の任期中にやる事がまだまだ一杯あるのよ、とお

っしゃっていましたが、志半ばで病に倒れられ、その無念さは何ばかりかお慰めの言葉もありませんでした。

ご自身の病の重さを痛感され、会長をご辞退されましたが、本当に残念だったこととお察しました。

先生のご逝去は愛知支部に大きな衝撃が走りました。長い期間病床につかれていたとはいえ先生のお元気な頃のあの輝やかな業績は私共の記憶の中にあって、かけがえのない偉大な先輩を失った悲しみに打たれました。

先生が亡くなられた40日後に、気胸を患っておられたご主人様が逝去されました。あの世で仲良くお過ごし下さいませと念じるのみでございます。先生は私の心の中で生きていられます。亡くなられた現実を受け入れなければと思いつつ、あのにこやかな知的で親しみやすいお姿の遺影をみながら日夜手を合せてご冥福をお祈りしている次第でございます。



## ありがとう、千代子さん

元日本女医会会長 山崎倫子

佐藤千代子先生、貴女が亡くなられた直後ご主人様からお電話があり「エーなぜ逝ってしまったの……」一瞬ショックと頭が空っぽになって言葉も出ませんでした。追いかけて行って連れ戻せないかしらとも思っただけです。

平成9年の初秋、突然たおられてからは何回もお見舞いに行き、頑張ろうねと励ましあってから10年近く。辛い年月をよく頑張ったと思います。

千代子さんと私の縁はいつから始まったの？と言われても答えようがないくらい深いものでした。貴女と私は昔から赤い糸で繋がっていたのではないかしら、と思えるほど私達はいつも同じようなことを考え、話し合ってきましたね。

本当になにかも。

東京女子医専の寄宿舎で同室になった時から、それは始まったような気がします。

その後、日本女医会の理事、愛知県支部の会長としてリーダーシップを発揮され、日本女医会にとってそれは大きな力でした。

1976年の東京開催の国際女医会総会、1993年京都開催の西太平洋地域会議にいろいろなアイデアを出したり、一緒に苦勞をしましたね。

そして阪神淡路大震災の際、日本医師会や大阪府医師協同組合から協力不要と言われる中、急遽泊まり込みで被災地に医療救援活動を行いたい、と先頭



に立って関係各支部に交渉し手配を整えました。同時に義援金を募り、見舞金を贈ると共に、被災後直ちに東京からは医薬品と、女性の視点で考えついた生理用品等の雑貨100万円ほどをライトバンで運転手2人お願いして運び、愛知支部からは1,000個の老眼鏡を届けたりで、女医会の担当した救護所は多くのお年寄りや女性たちに大変喜ばれました。貴女の愛情溢れた会長としての働きは、今もはっきりと思い出されます。

千代子先生、貴女は急ぎすぎたのでは……日本中を駆け巡りいろいろな国際的活動にも全身全霊で参加してました。貴女の日本女医会への思い、私達の心に残っています。有難う千代子さん。日本中海外まで諸外国の人たちを思って尽くされたことは分かっていますよ。もう今となっては安らかにお眠り下さい。

貴女のこと決して決して忘れません。私の家族も貴女のご冥福を祈ってます。

## 誰からも愛された、 気っ風のよいご性格

前日本女医会会長 橋本葉子

佐藤先生が突然倒れられたのは、先生が日本女医会会長の2期目に入った年でした。何時もお元気でしたのに顔面を少し怪我された状態で理事会に出席されたことがありましたが、その時、少し前にも街中

で転ばれたとおっしゃっていました。片麻痺が起きていることを伺いましたときに、以前の転倒はその前駆症状であったのかと思いました。退院後はご不自由ながらもお電話でお声をお聞きしたり、お手紙を頂いたりしておりましたが、ここ2年くらいは余り連絡が出来なくなっておりました。

私は佐藤先生がお倒れになられた後の日本女医会会長を引き受け、通算8年間会長を務めさせていただきました。山崎先生が会長の頃から日本女医会も社会活動が眼に見えてくるようになりましたが、その路線は佐藤先生に引き継がれ、阪神淡路大震災の際の救護活動など、女性医師集団ならではの社会貢献をされましたし、また、後輩の育成にも力を注がれました。一方、日本女医会は国際女医会に加盟しておりますが、1995年～1998年まで私が西太平洋地域担当の国際女医会副会長を務められましたのも、佐藤会長の推薦によるものでした。

佐藤先生は、物事をはっきりおっしゃる気っ風のよいご性格でしたので、理事会でも皆から愛されておりました。高齢化の日本では、まだまだご活躍いただける年齢で倒れられたことを思いますと、先生ご自身も無念さを感じておられたのではないかと推察しております。

私は多忙を理由に余りお見舞いにも伺わず失礼のみ申し上げてしまいましたが、何卒お許し下さいませ。そして、天国から日本女医会のますますの発展を見守って下さいませ。

## ■支■部■だ■よ■り■

### 活動の成果が少しずつ開花

愛知支部 小栗貴美子

昨年4月より愛知県支部長を仰せつかりました。平成16年の当支部40周年記念、翌年の日本女医会総会と2つの大きな行事を成功裡におさめられた前支部長中野慧子先生の後任ということで荷の重いスタートでありましたが、諸先輩や同輩のご声援により何とか今日までつつがなく過ぎてまいりました。月1回の理事会には支部長の私、副支部長2名、監事2名、理事19名が集まり、8部会を構成いたしております。その部長が毎月交代して理事会の議長を担当するという新たな取り組みを始めました。それまで、理事というだけで議題に余り真剣に取り組まなかったという自分自身への反省も含め、当たり前のこととはいえ、

やはり役員全員で諸問題に対処しようという気運の高まりを期待いたしました。皆、それぞれに勤務医は複雑な人間関係の中で日々切磋琢磨しており、また開業医は一国一城の主として厳しい地域医療に取り組んでおります。それぞれが理事会で智恵を出し合い、理性とぬくみを併せ持った女医会を作っていこうという親和力が多少強まったように思います。支部のドクターバンク開始、会員増強事業等、前向きな活動の成果が少しずつ開花いたしております。

私どもの女医会は愛知県医師会の一分科会でもあり、代表として県の理事を併任し、日本医師会男女共同参画委員会にも出席いたしております。そこでの課題を女医会に持ち帰り、ことあるごとに協力を惜しまない役員一同に感謝しつつ、不慣れな業務をこなしております。

この6月9日、昨年始まりました日本女医会主催の「たん吸引を安全に行うための講習会」を支部の皮切



りとして愛知県がお受けし、大坪公子理事のご来名にて大盛会の中、施行されました。詳細は担当いただいた山本續子理事にお任せいたします。

また6月24日には支部主催で日本女医会元会長の佐藤千代子先生を偲ぶ会を行いました。ご多忙な小田泰子会長、深井登起子埼玉支部長、またご遺族代表として栃木支部の市村みゆき先生のご出席を賜り、先生の全身全霊で本部、支部に捧げられた偉大な業

績を振り返りつつ、お好きだったウエスティンナゴヤキャッスルにて梅雨にけふる日曜日の午後のひと時を有意義に過ごしました。出席いただいた37名お一人お一人の先生への思い、エピソードのご披露を承り、微力ながら支部の発展に寄与しようとの心を新たにいたしました。今後とも何とぞよろしく願いいたします。

**委員会報告** 子育て委員会

理事 **山崎康子**

昨年からの「21世紀の子供のための小児救急医療の整備と提言事業」を続行いたします。委員構成は前年通り、委員長、病院勤務医2名、保育園園長、保育園看護師、女医会副会長2名、女医会理事3名の計10名。

医師は全員小児科専門医です。昨年は、保育園・幼稚園の保護者を対象としたアンケートを配布、このアンケートにもとづいた「どうしよう こどもの救急」という冊子を作成、アンケートをいただいた方全員に

配布いたしました。今年度は、患者を運ぶ消防署および受け入れる救急病院へアンケートを配布。救急医療の現場・救急車出動の現状、救急医療センターの医師および医療従事者の希望を調査して当委員会ならびに現場からの意見を考慮に入れ、双方からの意見を検討して提言していくつもりです。また前回の冊子の内容を検討し、充実させ分かり易い救急の手引きを作成する予定にしています。18年度作成の冊子に対して関係者より分かりやすく直ぐ役に立つという意見を多数いただきましたので増刷いたします。希望者には一部200円でお分けしたいと思いますので、日本女医会本部までお申し込みください。

**MOHRUS<sup>®</sup> TAPE**



指定医薬品  
経皮鎮痛消炎剤 ケトプロフェン貼付剤 〔薬価基準収載〕

**モーラステープ<sup>®</sup>**

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については製品添付文書をご参照下さい。

製造販売元  **久光製薬株式会社** 〒841-0017 鳥栖市田代大官町408  
資料請求先：学術部 〒100-6221 東京都千代田区丸の内1-11-1

2007年6月作成



## 長寿社会福祉委員会

副会長 角田由美子

独立行政法人福祉医療機構の長寿社会福祉基金よりの助成を受け、昨年度から実施してきた“たんの吸引を安全に実施するための教育講習事業”は、今年度も5,956,000円の助成をうけ、引き続き講習会を行う事が決まった。

講習会では、受講者達はまず座講にて法的解釈、疾病に対する基礎知識、介護の仕組み、局所の解剖、手洗い方法等を学び、実習では受講者が二人ずつのペアを組み、実際に吸引機を使って実技を学ぶ。昨年度は、以上の事を約20分にまとめたDVDと実習マニュアルを作成し、3回の講習会（東京都内）を行った。これらは講習会を開くたびに会誌にて報告し、年度末には一冊の報告書にまとめて皆様のお手元にお届けしたのでお目直し頂けたことと思う。

本年度はそれらの実績をふまえて場所を全国に移して講習会を行う予定で、すでに6月9日、名古屋市会場にて多数の参加者を得て実りのある講習会が開かれた。

今後は昨年度の経験を生かし、実習により重きを置いた講習会をと考えている。また講習会がより身近なものになるため、講師はできれば地元の先生方にと御願している。

講習会の今後の予定は、

7月14日（土）仙台市（仙台市医師会館）

9月30日（日）大阪市（大阪府医師協同組合）

以上決定。

その後、栃木県宇都宮市、岩手県盛岡市、山形県寒河江市、埼玉県、東京都での開催を予定している。

委員のメンバーは昨年度と同じ9名です。

また本年度から、外部評価委員として下記の4名の方々に御願した。

青葉病院院長 中条俊夫先生、国際医療福祉大学三田病院神経内科教授 武田克彦先生、社団法人日本看護家政紹介事業協会副会長 田村榮一氏、練馬区医師会訪問看護ステーション監理者 重信好恵氏

委員会は、外部評価委員にも加わって頂き6回の開催を予定している。次回は7月25日に開催される。

独立行政法人から助成を受けての事業には様々な規制がある。たとえば大きな荷物を持つての移動に、宅急便は使えるがタクシーの利用は認められない、夜の会合にも内部のものには交通費のみ。お茶代は許

されるがお弁当はだめ。その他色々、税金を使つての仕事の厳しさを味わっている。



## 第4回「たんの吸引を安全に行うための講習会」報告

理事 山本纈子

独立行政法人社会福祉機構「長寿社会福祉基金」助成事業で、日本女医会が行ってきた「たんの吸引を安全に行うための講習会」の第4回は、平成19年6月9日土曜日に藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院第一会議室にて開催された。この講習会は当初、藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院神経内科が後援することになり、講師も当大学関連の医師、看護師に依頼してあったが、急遽、日本女医会愛知県支部も後援することとなり、支部の先生方に講師や吸引指導をお願いした。

たん吸引の法的根拠、同意書取得などについて渋谷きよみ理事、たん吸引に必要な局所解剖と上下気道の常在菌について五味道子愛知県支部理事、たん吸引の必要な疾患・病態について山本纈子が担当し、小栗支部長の挨拶、中野前支部長の総括そして中西陽子愛知県支部理事も吸引指導を担当された。

参加受け入れ人数は60名としていたが、締め切りを過ぎて参加希望が多くあり、前回は参加申し込みはされても欠席の方があったということで、取りあえず受け付けた。しかし、雨天の土曜日という悪条件の中にもかかわらず、欠席者も殆どなく、受講者85名、次回担当の宮城支部から2名、次々回担当の大阪支部から6名、地元愛知から6名、実習の指導のお手伝いをしてくださった看護師さん5名、本部から大坪、松井両理事、そして事務局霜田さんが加わって総勢100名を超す大盛況であった。会議室が狭く皆様に不自由をかけたが、何とか形になり、帰り際に多くの受講者から感謝の言葉があり、職責を全うできて安堵すると共に女医会の皆様や私の勤務する病院の看護師、検査技師そして医局秘書のご貢献に深く感謝する次第である。

この事業は本当にニーズが高く、今後も各地で開催されるが、会の終了後に看護師、薬剤師の方からも名古屋にても頻回に開催して欲しいとの要望があり、それはこの地区で検討することとし、本部の担当の皆様方にこのメッセージをお伝えして更なる発展・飛躍を期して報告としたい。

国	際	女	医	会	●	M	W	I	A	
N	E	W	S	R	E	L	E	A	S	E

国際女医会（MWIA）本部から送られてくるいろいろなニュースをここでお知らせします。

ナショナルコーディネーター 内潟安子

## 国際女医会議（MWIA）の 事務総長から報告

Dr. Waltraud Diekhaus

1998年から2007年の期間をカバーする国際女医会議（MWIA）の事務総長として、これまでの32回のNewsletters“Update”の報告とともに、第3期と最後の期の事務総長としての報告をここに記すことを、私はとても名誉に思っています。

MWIA事務局でのとてもリッチなそして魅力的なわくわくする9年間の経験をしまして、私には9年間は十分であると考え、事務総長を辞することになりました。最後にあたりまして、私は心から、このぞくぞくするようなそして挑戦的にかつ手のかかる、しかし魅力的で充実した時間を持てたことに対して、皆様に御礼を申し上げたいと思います。私は、我が地球の家族である多くの楽しい皆様と会う機会を持つことができ、そして女性の健康とは何かについてたびたびディスカッションできました。全世界の多くの女性医師の皆様と友達になれて、お互い意見交換する偉大なチャンスを持つことができたのだと思っています。

事務局はいつも皆様メンバーの方々に「いかによりサービスができるか」を第一において努力しています。私たちは、いつもメンバーの皆様にMWIAが関係するすべての領域のことをお伝えしたいと努力してきました。これまでも小さな会議や大きな会議をアナウンスしてきましたし、世界のいろいろな分野の女性に関する事柄をお伝えしてきました。国連やWHOの報道ニュースや、他の「これは」と思うニュースは抽出してお伝えしてきたつもりです。事務局はいつも季

刊のNewsletters“Update”のレイアウトを、すこしでも皆様のお役にたつようなものにしようと改良しようと努めてきました。事務局は我々のメンバー料金の預金先であるスイス銀行からコンスタントに情報を得ております。

これまでいろいろ事務局と関係しました、各国の女医会、各国の女医会とMWIAの橋渡しをしていただいたナショナルコーディネーターの皆様、各委員会の座長の皆様、そしてMWIAが機能するように助けていただいたExecutive Committeeのメンバーの皆様、ほんとうに御礼を申し上げます。

事務局は今後大きく変化していくことが期待されます。私は、前MWIA会長Dr. Shelly Rossが今後この事務総長になれることを確信しています。私は、彼女がこの役職にベストな方であると信じています。Dr. Shelly Rossは1982年にQ-MWIAに参加され、2001～2004年には会長でありました。ですから彼女は皆さんを知っているし、何でも知っています。よって、心から彼女がこの役職に就くのをうれしく思っています。

事務総長を辞してもMWIAの会議には参加しつづけたと思っています。そのために欧州中央地域担当の副会長になることを決めました。引き続き、この9年間の知識と経験をこれからの委員の皆様のお役に立てればと思っています。

MWIAの正式なヘッドオフィスはこれまで通りスイスのジェノバにあります。実際のオフィスは事務総長の居る場所であるこれまでそのようにされてきました。ゆえに、今度の2007年の総会以後はDr. Shelly Rossのお住まいのカナダのバンクーバーに置かれることになります。（以下、省略）

## 第10回ブロック別懇談会

理事 古賀詔子

平成19年4月22日（日）に三重県津市で第10回ブロック別懇談会を開催しました。会場となったホテルグリーンパーク津には、三重支部の田中優子理事がお声がけした5人の女性医師にお越し頂き、日本

女医会からは会長、副会長2名、理事3名が参りました。

今回お越しくくださった5人の先生方のうち日本女医会会員は一人だけで、他の先生方はご入会なさっていません。ご専門は内科2名、外科2名、産婦人科1名というお顔ぶれでした。

古賀が司会を担当し、会長挨拶の後、鹿田副会長



が日本女医会の説明と現在の事業とをご紹介し、神奈川支部で担当することとなった第52回定時総会と、来年度に本部担当により東京で開催する第53回定時総会のご案内をしました。次いで着席順に全ての出席者が自己紹介を兼ねてのスピーチを行いました。ご参加くださった先生方からは、日本女医会について様々なご質問がざっくばらんに寄せられました。多くの事業を行っていることに驚かれ、女性医師支援事業にも積極的であることに好感を持って頂けた様子でした。

その後、田中理事に司会を代わり、昼食をとりながらの懇談会に移りました。今回のブロック別懇談会は参加者が少数だったこともあり、短い時間ながらお互いに打ち解けた雰囲気終始し、内容の濃い懇談会だったと思います。

また、会長、角田副会長、田中理事、古賀の4名

は前日、東京での理事会の後に津入りしておりました。ご都合でブロック別懇談会にご参加できなかった三重県の入山先生が加わり、5名で午後9時から松坂牛のしゃぶしゃぶに舌鼓を打ち、その後入山先生行きつけのお寿司屋でご馳走になりました。その美味しかったこと、参加されなかった先生方には申し訳ないほどでした。

今回は、三重支部の田中理事が会のご案内から会場設定、宿泊予約までの労をとってくださり開催に至りました。今後、お一人でも多くの女性医師に日本女医会をご理解頂き、会員増強と日本女医会のますますの発展を願い、ブロック別懇談会を有効に開催して行く所存です。

最後にこのブロック別懇談会にご出席くださった先生方が全員、当会員になってくださったことを付け加えたいと思います。

三重ブロック会では、参加した女医たちに日本女医会の目的、活動などをまず説明。続いて県支部の田中優子支部長が、日本女医会理事にこのほど選任されたことも受けて、特に県内での会員の勧誘、支部の増強について話し合った。また女医の研究助成事業として海外への『子連れ留学』の実施を検討していることも明らかにし

た。日本女医会は1902年に創設。女性医師の社会的地位の向上や相互の研究、親睦を深めながら地域医療・福祉の増進、国際交流・親善など社会貢献活動も積極的に進めている。全国の女医約四万五千人のうち、同会会員は約千八百人とまだまだ組織率が低い。

### 地位向上と組織拡充へ

日本女医会 三重

社団法人日本女医会（小田泰子会長）の三重ブロック会が4月22日、津市で初めて開かれた。日本女医会の事業や活動を県内で広めるため、小田会長ら理事も多数参加して、県内の女医らと県支部の組織拡充へ活発な意見交換をした。



ブロック別懇談会を報じる新聞記事  
2007年5月10日 朝日新聞



### 書評

## 『人間関係うまくいく！ 自分を知る「6つのキャラ」』

心理学にもとづくPCMメソッド入門

吉野一枝、田中剛太 著 小学館 1,365円（税込）

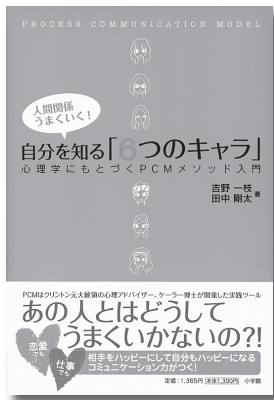
PCM（プロセス・コミュニケーション・モデル）は、アメリカで開発された心理学的手法のひとつです。テービー・ケーラーという心理学者が考案し、交流分析の分野で利用されてきました。現在では、NASAをはじめ、IBM、BMW、ロレアル、コダックなど大企業の人材育成や企業戦略にも用いられているそうです。簡単にいえば、誰もがもっている6つのキャラクターのうちどのキャラクターが自分のベースで、どのキャラクターが遠いのかを分析することによって、また、相手のパーソナリティーを把握することによって、相互のコミュニケーションを円滑にし、人間関係のスト

レスを減らす方法です。

友人の産婦人科医・臨床心理士である吉野一枝先生が、夫君と共著で、一般の人にもわかりやすいPCMの本を書きました。

6つのキャラクターとは、①心情と感受性のキャラクター＝オレンジ、②反応とユーモアのキャラクター＝イエロー、③倫理と価値観のキャラクター＝パープル、④思考と論理のキャラクター＝ブルー、⑤内省と想像性のキャラクター＝ブラウン、⑥行動と競争心のキャラクター＝レッドのことをいいますが、それぞれにエネルギーを充電するものは、①雰囲気のいいお

店、おいしいお茶やお食事、「あなたがいてくれてよかった」などの癒される言葉、②冗談やちょっとしたいたずら、ユニークな発想、わくわくする遊び、「サイコー！ノリノリ！」などの楽しい言葉、③誠実で真摯な態度、尊敬と敬意、「あなたの熱心さには頭がさがります」という賛辞、④事前のアポ、きちんとしたスケジュール、仕事や業績の記録、正当な報酬、能力を発揮できる仕事、⑤ひとりだけの時間と空間、「ゆっくりでいいから」「自分の部屋にいていいよ」と



いう言葉、⑥特別扱い、取り引きや賭け、興奮や刺激、ビッグチャンス、「あなたしかできない」「お得です」という言葉だそうです。あなたのベースキャラはどれでしょうか。また、最も遠いキャラは？

これからは、患者さんに対しても、またパートナーや子供に対しても、パーソナリティーをみてその対応を工夫するようにしてみましょう。誰に対しても同じではなく、コミュニケーションを個別化することも、大事な医療の要素でしょう。

\*もっと詳しくお知りになりたいかたは、ケーラー・コミュニケーションズ・ジャパン [www.kcj-pcm.com](http://www.kcj-pcm.com) にアクセスしてみてください。

理事 対馬ルリ子

規定が一部改正されましたのでお知らせいたします

●吉岡弥生賞選考規定

第一条 (資格)

吉岡弥生賞は本会の目的達成に著しい貢献をした日本女医会員、または団体を対象として授与する

一、医学に貢献した会員

二、社会に貢献した会員

第二条 (表彰・副賞)

一、副賞は一名二十万円とする  
二、表彰状・楯・副賞は日本女医会総会の席上において会長より授与する

第三条 (選考委員・選考委員会)

一、選考委員は七名(会長・副会長三名・理事三名)の委員をもって構成し、その任期は日本女医会役員任期と同じとする

二、選考委員会は推薦された候補者について書類選考し、多数決をもって受賞者を決める

第四条 (候補者の推薦・締切)

一、候補者の推薦は日本女医会理事(ただし選考委員を除く)及び支部長に委嘱する。

二、締切は毎年十二月二十五日とする。

第五条 (提出書類) 別記

一、候補者の履歴書(自署・写真貼付)並びに業績書

二、推薦書には推薦理由と二名以上の推薦者(内一名は日本女医会役員とする)の自署、捺印を必要とする。

「吉岡弥生賞」は一九六七年の総会に於いて龍知恵子先生の発案により日本女医会の事業として制定された賞である。この主旨に賛同された荒川あや先生から二十万円の寄付を頂き、それを基金として運用している。

「吉岡弥生賞」は一九六七

年の総会に於いて龍知恵子先生の発案により日本女医会の事業として制定された賞である。この主旨に賛同された荒川あや先生から二十万円の寄付を頂き、それを基金として運用している。

二、選考委員会は推薦された候補者について書類選考し、多数決をもって受賞者を決める

第四条 (候補者の推薦・締切)

一、候補者の推薦は日本女医会理事(ただし選考委員を除く)及び支部長に委嘱する。

二、締切は毎年十二月二十五日とする。

第五条 (提出書類) 別記

一、候補者(被推薦者)の経歴・業績を記載した推薦書

二、推薦書には推薦理由と二名以上の推薦者の自署・捺印を必要とする。

「荻野吟子賞」は一八八四年に公許女医誕生百周年を記念し、女性として初めて公に医師の資格を与えられた荻野吟子の偉業を称え、その名を永久に伝えるために制定された賞である。

二、表彰状・記念メダル・副賞は日本女医会総会の席上において会長より授与

二、締切は毎年十二月二十五日とする。

●荻野吟子賞選考規定

第一条 (資格)

荻野吟子賞は、独自の活躍をもって女性の地位向上に著しい貢献をした者に与えるものとし、原則として日本女医会員とする。

第二条 (表彰・副賞)

一、副賞は金五万円とする。但し受賞者が複数の場合はこれを人数で割った金額とする。

二、表彰状・記念メダル・副賞は日本女医会総会の席上において会長より授与

二、締切は毎年十二月二十五日とする。

二、締切は毎年十二月二十五日とする。

社団法人日本女医会  
(((定時総会議事録)))

日時 平成 19年 5月 19日 (土)  
場所 パシフィコ横浜会議センター  
(横浜市西区みなとみらい 1-1-1)  
午前 13時 02分 開会

司会 澁谷きよみ  
社団法人日本女医会総会開催に際し  
会員数 1,743名  
出席数 116名  
記名委任数 551名  
白紙委任数 223名  
以上のとおり日本女医会定款第27条の定足数349名に達し、総会が成立する旨

の報告あり、開会を宣す。  
会長挨拶 小田泰子  
物故者への黙祷  
平成18年度物故会員に黙祷  
報告  
1. 会務および事業報告 山崎トヨ



配布済みの資料にもとづき報告

2. 平成18年度特別会計報告 森川由紀子  
吉岡弥生賞基金会計  
国際女医会議記念事業基金会計  
独立行政法人福祉医療機構助成金  
以上について配布済みの資料にもとづき報告

3. ナショナルコーディネーター報告 内湯安子

**議長団選出**  
秋葉則子、中山年子〔議長団、議長団席に着席〕

**議事録署名人名選出**  
加藤光子、深井登起子

**議事**  
**第1号議案**  
1) 平成18年度一般会計収支計算書案 高原照美  
配布済みの資料にもとづき報告 原案どおり可決

2) 剰余金処分案 高原照美  
次期会計へ繰り越すことを原案どおり可決  
会計監査報告 川田喜代子  
監査の結果適法かつ正確であることを認める旨の報告、承認される。

**第2号議案** 角田由美子  
平成19年度事業計画

- ・庶務部  
諸会議の開催  
会員増加推進  
ブロック別懇談会の開催  
日本女医会吉岡弥生賞の募集
- ・学術部  
研究助成  
学術講演研修会を年数回開催
- ・事業部  
全国公募による公開講演会の援助  
荻野吟子賞、地域功労賞の決定と授与  
地域医療奉仕活動への助成  
社会保険新報社への原稿協力：  
月刊「いきいき」に健康記事掲載  
講習会等の事業実施  
災害、緊急時行動  
バザー、親睦活動による事業  
日本女医会活動に資する事業部アンケートに基づく事業の検討
- ・渉外部  
国連 NGO 国内婦人委員会および国際婦人年連絡会の加盟団体、市川房枝記念会維持団体として活動  
内閣府男女共同参画局に協力  
国内外医療関係団体との交流  
厚生労働省「健やか親子21推進協議会」の協力団体として活動  
国際機関との交流
- ・広報部  
機関紙の発行  
ホームページの更新と活用  
子育て支援委員会  
平成19年度独立行政法人福祉医療機構の「子育て支援基金」より助成をうけ「21

世紀のこどものために小児救急医療の整備と提言事業」を継続  
「働く女性のための育児環境整備支援事業」を継続  
「十代の性と健康 指導者養成講座」を年1回開催予定  
長寿社会福祉委員会  
平成19年度独立行政法人福祉医療機構の「長寿社会福祉基金」より助成をうけ「たんの吸引を安全に実施するための教育講習事業」を継続  
以上原案どおり可決  
・木村あさの会員（青森支部）より現在「支部助成」の名称を「支部活動費」としてほしいとの提案があった。理事会で検討する。

**第3号議案**  
平成19年度一般会計収支予算案 濱田啓子  
原案どおり可決

**第4号議案** 鹿田儀子  
各賞選考規定の件 原案どおり可決

**第5号議案**  
次期および次々期総会開催地に関する件 小田泰子  
次期開催地 東京で承認  
次々期開催地 川田監事より大阪開催を前向きで検討するとの報告  
・中野慧子会員（愛知支部）より平成16、17年度「育児環境整備支援事業」について具体的にどのような活動だったか質問があり、担当者から回答する。  
補欠選挙（監事）の件 小田泰子  
任期満了の川田監事の後任として中井紀子氏を紹介

**表彰**  
1) 吉岡弥生賞授与者 石原幸子、加藤笠子、湯沢美都子  
2) 荻野吟子賞授与者 稲生 襄  
3) 学術研究助成金授与者 大屋敷純子、中神朋子、柳町 幸

閉会の辞 鹿田儀子  
午後2時37分閉会

**社団法人日本女医会**  
**(((定時評議員会議事録)))**

日時 平成19年5月19日（土）  
場所 パシフィコ横浜会議センター  
（横浜市西区みなとみらい1-1-1）  
午前10時30分開会  
司会 古賀詔子  
社団法人日本女医会評議員会開催に際し  
評議員数 97名  
出席数 49名  
記名委任数 28名  
白紙委任数 6名  
以上のとおり日本女医会定款第27条の定足数19名に達し、評議員会が成立する旨の報告あり、開会を宣す。

会長挨拶 小田泰子

**報告**

1. 会務および事業報告 山崎トヨ  
配布済みの資料にもとづき報告

2. 平成18年度特別会計報告 森川由紀子  
吉岡弥生賞基金会計  
国際女医会議記念事業基金会計  
独立行政法人福祉医療機構助成金  
以上について配布済みの資料にもとづき報告

3. ナショナルコーディネーター報告 内湯安子

**議長選出**

齊藤恵子〔議長、議長席に着席〕

**議事録署名人名選出**

小栗貴美子、柿島八千代

**議事**

**第1号議案**

1) 平成18年度一般会計収支計算書案 高原照美  
配布済みの資料にもとづき報告 原案どおり可決

2) 剰余金処分案 高原照美  
次期会計へ繰り越すことを原案どおり可決  
会計監査報告 川田喜代子  
監査の結果適法かつ正確であることを認める旨の報告、承認される。

**第2号議案** 鹿田儀子

平成19年度事業計画

- ・庶務部  
諸会議の開催  
会員増加推進  
ブロック別懇談会の開催  
日本女医会吉岡弥生賞の募集
- ・学術部  
研究助成  
学術講演研修会を年数回開催
- ・事業部  
全国公募による公開講演会の援助  
荻野吟子賞、地域功労賞の決定と授与  
地域医療奉仕活動への助成  
社会保険新報社への原稿協力：月刊「いきいき」に健康記事掲載



## (((理事会議事録)))

日時：平成19年3月24日(土)  
午後3時00分  
場所：(社)日本女医会会議室  
出席者：小田、鹿田、角田、山崎(ト)、  
荒木、内湯、大坪、古賀、坂本、  
澁谷、高原、田中、塚田、対馬、  
濱田、津田、藤川、村田、森川、  
山崎(康)、山本(續)、吉馴、  
松井(以上23名)  
欠席者：大塚、西嶋、山本(蒔)、川田(以  
上4名)

庶務報告  
会計報告  
各部報告

### 議 題

1. 第52回定時総会、評議員会の進行について
2. 第53回定時総会について
3. 各賞選考規定について
4. 平成19年度ブロック別懇談会開催について
5. 事業部アンケート調査について
6. その他

1月理事会議事録を承認

### 【小田会長挨拶】

- 1) タミフルの問題について
- 2) 事業部で実施したアンケートの集計ができたことを感謝。子育て、女医会活動に多くの意見があった。「子育て」は女性支援ではなく「子ども支援」であり、社会化が必要。
- 3) 熊本市の慈恵病院が計画した「赤ちゃんポスト」に対する安倍総理の意見は目の前で困っている人に向かっていない。国民の父として「官邸に連れてきなさい」くらいを言ってほしい。
- 4) 2005年生命表が発表された。男性78.56歳、女性85.52歳、男性は0.84歳、女性は0.92歳伸びた。人間以外の動物は生殖年齢の終わりが生命の終わりであるが、なぜ人間だけこのように長い老後を持つのかは動物学的には不思議。
- 5) メーリングリストによる男女共同参画について建設的な意見を頂いた。会としてこれらの意見と今回行われたアンケート調査をふまえて日医、厚労省、メディア、各女性団体等に向かって声明文を出すことを検討してはどうか。

### 報告事項

1. 庶務報告 澁谷理事  
(1) 京都支部総会の報告(小田会長) 同時開催・子育て委員会主催「講演会」の報告(鹿田副会長)  
(2) 2月会計報告(森川理事)承認

- (3) 子育て委員会報告  
「こどもの救急、マニュアル本と報告書」を3月中に印刷、関連箇所配布予定(森川理事)
- (4) 長寿社会福祉委員会報告  
3月1日に今年度最終委員会を開催。3月中に報告書を作成、配布予定(大坪理事)
- (5) 日本医師会女性医師バンクの進捗状況の報告(大坪理事)  
女性医師バンクの説明があった。日本医師会勤務医部会との会議も開催された。今後、メーリングリストと理事会の場を大いに利用し役員同士の情報交換をし、日本医師会へ日本女医会の意見として発表する。最終的には文章として提出する。
- (6) その他  
・福祉医療機構より「働く女性のための育児環境整備支援事業」が平成16年度に引き続き、平成17年度でも「特に優れた事業と認められた」との連絡があった。(鹿田副会長)  
・国連関連「国際女性の日」に関する会議に出席したが(対馬理事)、今後案内を日本女医会へ送付してもらえるように働きかける。  
・広報部より4月16日に広報部会を開催予定。

### 協議事項

1. 第52回定時総会、評議員会の進行について  
・開始時間は評議員会:10時30分、総会:13時を再確認する。  
・議題を決定し、進行表に基づき所要時間と発表者を決定する。
2. 第53回定時総会について  
資料に示された4案を検討し、「土曜日17時より評議員会、19時から懇親会、翌日日曜日11時から総会・選挙、軽い昼食あるいはランチョンセミナー、14時から講演会」で行なうことに決定。魅力ある講師とランチョンセミナースポンサーの推薦を要請。  
また、評議員会、総会の速記録の必要があるか否か調べる。
3. 各賞選考規定について  
前回理事会で懸案になった点を検討した。「選考委員は推薦者になれない」を加え、あとは従来どおり。
4. 平成19年度ブロック別懇談会開催について  
4月22日(日)10:30~13:00三重・津市 ホテルグリーンパーク津で開催を承認  
多くの理事の出席を要請。
5. 事業部アンケート調査について  
・1月末に送付した事業部アンケートは回収458通、回収率約26%であった。  
・入力済み集計の説明があった。会員への報告方法等、今後検討する。  
・総会出席者へ中間報告として「アンケート回収一覧」を配布する。

講習会等の事業実施  
災害、緊急時行動  
バザー、親睦活動による事業  
日本女医会活動に資する事業部アンケートに基づく事業の検討  
・渉外部  
国連NGO国内婦人委員会および国際婦人年連絡会の加盟団体、市川房枝記念会維持団体として活動  
内閣府男女共同参画局に協力  
国内外医療関係団体との交流  
厚生労働省「健やか親子21推進協議会」の協力団体として活動  
国際機関との交流  
・広報部  
機関紙の発行  
ホームページの更新と活用  
子育て支援委員会  
平成19年度独立行政法人福祉医療機構の「子育て支援基金」より助成をうけ「21世紀のこどものために小児救急医療の整備と提言事業」を継続  
「働く女性のための育児環境整備支援事業」を継続  
「十代の性と健康 指導者養成講座」を年1回開催予定  
長寿社会福祉委員会  
平成19年度独立行政法人福祉医療機構の「長寿社会福祉基金」より助成をうけ「たんの吸引を安全に実施するための教育講習事業」を継続  
以上原案どおり可決  
・深井登起子(埼玉支部)より  
会員増強のため日本女医会誌を広く配布しては如何か、という提案があった。今までもやっているが今後とも継続する。  
・木村あさの(青森支部)より  
現在「支部助成」として支部に還元されているが、今後は事業案と予算案に「支部活動の促進」として項目を加えてほしいとの希望があった。  
理事会で検討する。

**第3号議案**  
平成19年度一般会計収支予算案  
濱田啓子  
原案どおり可決

**第4号議案**  
各賞選考規定の件  
鹿田儀子  
原案どおり可決

**第5号議案**  
次期および次々期総会開催地に関する件  
小田泰子  
次期開催地 東京で承認  
次々期開催地 川田監事より大阪開催を前向きで検討するとの報告  
補欠選挙(監事)の件 小田泰子  
任期満了の川田監事の後任として中井紀子氏を紹介

閉会の辞 角田由美子  
午前11時43分閉会



## 6. その他

・「たんの吸引を安全に行なうための講習会」

名古屋では6月9日に開催決定。7月14日開催の会場は仙台市医師会館に決定。

・次々総会開催地について

支部に負担のかけない方法で、富山支部の開催を高原理事に打診する。

・内閣府男女共同参画局「男女共同参画推進連携会議」、活動支援について

松井監事より、今回男女共同参画に関する講演会に50～100万円の予算がつくことになったとの報告。神奈川総会の「講演会」を申請することに決定。

・監事立候補について

川田監事の任期がこの5月に終了する。その後任として立候補が一名あった。

以上

日 時：平成19年4月21日（土）  
午後3時00分

場 所：(社)日本女医会会議室

出席者：小田、鹿田、角田、荒木、大塚、大坪、古賀、坂本、高原、田中、塚田、対馬、濱田、藤川、森川、山崎（康）、山本（蒔）、吉駒、松井（以上19名）

欠席者：山崎（ト）、内潟、澁谷、津田、西嶋、村田、山本（續）、川田（以上8名）

庶務報告

会計報告

各部報告

## 議 題

1. 評議員会、総会の最終打ち合わせ
2. 本部口の決算・予算と特別会計について
3. 次々総会開催地について
4. 女性医師支援委員会の立ち上げについて
5. メディアへの対応について
6. 日本女医会奨学金創設（案）
7. 心肺蘇生法の手引き「もしも！のときの救命マニュアル」について
8. その他

3月理事会議事録を承認

## 【小田会長挨拶】

- ・前々会長の佐藤千代子先生が3月30日にお亡くなりになった。
- ・能登半島地震では七尾市災害対策本部にお見舞金を差し上げた。
- ・国際女医会から、「HPVの予防接種を行なうように」と若い女性に呼びかけるキャンペーンへの提言があった。日本女医会の事業として取り組んでいきたいと思っている。

・日本医学会総会で「女性医師と職場環境」というセッションが設けられたが、日本女医会が声をかけられなかったことは誠に残念なことである。

- ・総会の効率の良い進行を要請。
- ・日本女医会のメーリングリスト参加に感謝し、有効な活用を望む。

## 報告事項

1. 庶務報告 大塚理事  
(1) 3月理事会後、京王プラザホテルで開催した「役員夕食会」の報告（角田副会長）  
(2) 3月25日開催の「十代の性と健康指導者養成講座第10回」の報告（対馬理事）  
(3) 4月20日内閣府男女共同参画局主催「第51回国連婦人の地位委員会等について聞く会」の報告（松井監事）

(4) 各部報告

・事業部

アンケートの分析結果の報告（坂本理事）

(5) 2月会計報告（森川理事）承認

(6) 委員会報告

・子育て委員会

こどもの救急マニュアル本が好評につき増刷を計画。今年度の事業計画の報告（森川理事）

・長寿社会福祉委員

今年度の事業計画の報告（大坪理事）

(7) 日本医師会第3回男女共同参画フォーラムについて（大坪理事）

7月28日「医師の勤務環境の改善をめざして」と題して、横浜市・神奈川県総合医療会館にて開催。来年は福岡で開催予定。

(8) その他

- ・3月22日開催された「健やか親子21推進協議会総会」出席の報告（山本（蒔）理事）
- ・もし滞納退会者が同じ支部にいたら、連絡して復会を薦めること。

## 協議事項

1. 評議員会、総会の最終打ち合わせ  
資料1を基に最終確認。時間の短縮に努める。
2. 本部口の決算・予算と特別会計について  
・法人の会計基準の改正に伴い、会計の表示の仕方が変更になった。そのため吉岡弥生基金等は預かり金（負債）として計上しなければならなくなった。  
・福祉医療機構からの助成金は収入として事業費に組み入れることに変更。  
・名簿引当金は毎年未使用にも拘らず100万円繰り入れているが、本年より10万円とした。  
・選挙のある2年毎に名簿作成するかは今後の検討事項とする。  
・会費収入の減少をカバーするため何ら

かの収益事業が必要。今後の検討事項とする。

3. 次々総会開催地について

高原理事より富山支部長に打診した結果の報告があった。開催は不可能。

長年総会を開催していない大阪支部と宮城支部に検討してもらおう。

4. 女性医師支援委員会の立ち上げについて

荒木理事より、育児支援、女性医師の就労環境整備を目標とした委員会設置の提案があった。他団体からのデータ整理等、現状を分析し具体的な活動を早急に計画する事に決定。渉外部が中心となり各部より1～2名選出する。（広報部：対馬理事、庶務部：澁谷理事、事業部：坂本理事、会計部：高原理事、学術部は未定）

5. メディアへの対応について

事務局は必ず趣意書もらい、会長から指示を得る。

6. 日本女医会奨学金創設（案）

藤川理事より、会員増強・日本女医会の周知・若い女性医師支援のためにも、話題性のある奨学金制度を作ってはとの提案が出された。共通性が多いので、「女性医師支援委員会」で検討する。

7. 心肺蘇生法の手引き：「もしも！のとき救命マニュアル」について

当初販売して利益を見込んでいたが、見込みうすなので取りやめる。

8. その他

・「タバコ問題首都圏協議会」後援依頼および「男女共同参画局、平成19年度チャレンジ・キャンペーン」協力団体へ参加依頼を承認。

・愛知県支部主催で行なわれる佐藤千代子先生を偲ぶ会」に役員慶弔費より弔意を表すこととする。

・森川理事より、災害見舞金の寄付の方法、額等をどの部で決定するか疑問が出された。今後、会長、副会長、庶務部で相談の上で決定する。

・事業部アンケート結果を資料として総会出席者に配布する。

以上







# 報告 会員と支部長アンケートの報告

理事 坂本雅子

1月から2月にかけて会員と支部長の皆様に「日本女医会活動についてのアンケート」をさせていただきました。ご多忙の中ご協力いただき、誠にありがとうございました。会員1,768名、回収率25.7%、支部長81名、回収率32.1%でした。

皆様の日本医師会の加入率は、85.2%でした。

会員が望んでいる本部活動は、図1のようですが、女性医師の働きやすい環境づくりが76.2%で、今後最も力を入れていかなければならないことと思われます。具体的には、図2のように、アピール活動や、ネットワークづくりが望まれていました。総会終了後の6月、早速理事会内に「女性医師支援委員会」がたちあがり、今後女医会として、どのような活動が出来るかの検討が始まっております。

また、現在日本医師会、地域医師会をはじめ医療界での女性医師の働きやすい環境づくりの活動が始まっていますが、日本医師会や地域の医師会へ望むこととしては、図3、図4のようにアピール活動や情報収集などとともに、役員への女性医師の登用などでした。

支部長アンケートも同様なご意見でしたが、本部活動の活性化については、図5のように様々なご意見をいただきました。

自由記載のご紹介はひとつひとつ出来ませんが、貴重なご意見を多数お寄せくださりましてありがとうございました。今後の活動に生かしていけたらと思います。

図1. 本部活動への希望

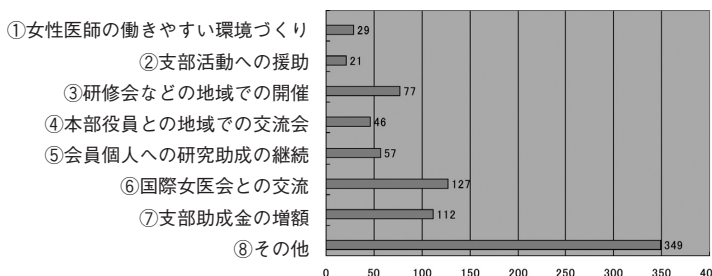


図2. 女性医師の働きやすい環境づくりのために本部活動への希望

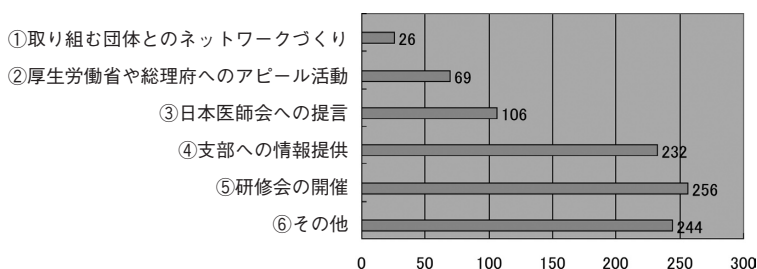


図3. 日本医師会活動への希望

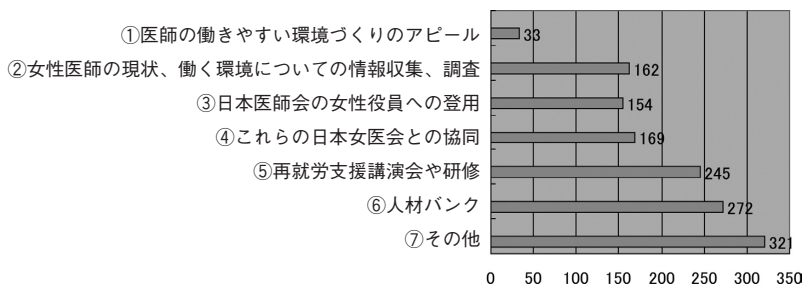


図4. 県市医師会活動への希望

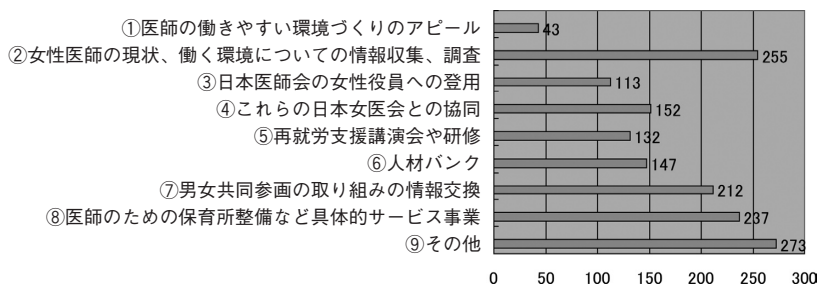


図5. 支部長アンケート 本部活動の活性化についてどのような活動が必要か

内容	①環境づくり	②支部活動への援助	③公的資金の獲得	④本部役員と支部役員との交流	⑤女子医学生を対象とした講演会等の開催	⑥国際女医会との交流	⑦本部活動の明確化	⑧日本医師会との連絡強化
回答数	9	6	3	5	6	6	6	9



澤口聡子会員：第3回『ヘルシーソサエティ賞』授与される

ヘルシーソサエティ賞は、国民の健康や地域社会の福祉、生活の質の向上などに指導的な役割を果たした人々を顕彰するためにジョンソン・エンド・ジョンソングループ各社と日本看護協会が2004年に創設した賞です。健全な社会は誰かの努力によって作られるという観点で受賞者が選ばれます。

教育部門で澤口聡子会員（東京女子医科大学医学部法医学講座準教授）が選ばれました。

澤口聡子準教授は、小児虐待や乳幼児突然死症候群などに関わる小児法医学を専門としています。大学では教育と実務のほとんどを担当し地味な努力を続けています。研究においても著しい業績を挙げており、この度の受賞は、日本女医会としてもとても喜ばしいことなので皆様にお知らせします。

理事 大坪 公子

編集後記

第52回定時総会は全国から多数の会員が集まり実り多い楽しい会でした。神奈川支部の皆様にご心から感謝申し上げます。日本の医療は女性医師の活躍なしには成り立たない現状です。力の限りを尽くしより良い医療のために働きましょう。

「ひのものとやさしき医療病む人を  
愛もてつつむ女医の働き」

大坪公子

会員動静 (2007年6月25日現在)

入 会	安田 有子	(昭42年卒)	岩 手	千 葉
	松信恵美子	(昭38年卒)	新 宿	
	松岡佐保子	(平5年卒)		
	山崎 由花	(平14年卒)	港 下	西 川
	名越 澄子	(昭58年卒)	都 奈	川 川
	白木 桃子	(昭43年卒)	神 奈	川 知
	中村志津子	(昭46年卒)	神 奈	知
	山下 典子	(昭53年卒)	愛 知	第5
	有本 裕子	(昭52年卒)	愛 知	島
	鶴田 京子	(昭59年卒)	大 阪	
	連 美知子	(昭53年卒)	長 崎	
	一瀬 治子	(昭51年卒)	鹿 児	
帖佐 理子	(昭56年卒)			
退 会	22名			
会 故	飯田千枝子	(昭18年卒)	茨 城	
	佐藤千代子	(昭19年卒)	愛 知	

日本女医会誌

復刊第191号 2007年7月25日発行  
編集人 大坪公子  
発行人 小田泰子  
制作 あづま堂印刷製

発行所 社団法人 日本女医会  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7青山官野ビル  
TEL 03-3498-0571 FAX 03-3498-8769

http://www.jmwa.or.jp  
e-mail : office@jmwa.or.jp

本剤の効能・効果、用法・用量、禁忌を含む  
使用上の注意等は添付文書をご参照ください。

〔資料請求先〕  
武田薬品工業株式会社  
〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号  
http://www.takeda.co.jp/

持続性アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤  
指定医薬品 処方せん医薬品<sup>注</sup> 薬価基準収載

**ブロプレス<sup>®</sup>錠<sup>2.4/8.12</sup>**  
(一般名: カンデサルタン シレキセチル錠) 注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

BIG PHARMAS B

(0511)